

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 ：一般国道153号伊南バイパス <small>いなん</small>	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 中部地方整備局				
起終点 ：自：長野県上伊那郡飯島町本郷 <small>ながのけんかみいなぐんいじままちほんごう</small> 至：長野県駒ヶ根市赤穂 <small>ながのけんこまがねしあかほ</small>		延長 ：9.2 km				
事業概要 ：一般国道153号は名古屋市を起点とし、愛知県豊田市、長野県飯田市、駒ヶ根市、伊那市などの主要都市を経て、長野県塩尻市に至る延長220kmの名古屋都市圏と長野県中心地域とを結ぶ幹線道路です。 本事業の伊南バイパスは、長野県上伊那郡飯島町本郷から長野県駒ヶ根市赤穂に至る延長9.2kmの国道153号のバイパスであり、長野県からの権限代行を受け、次の3点を主な目的として事業を推進しています。①渋滞の緩和、②沿道環境の改善、③交通安全の確保						
H9年度事業化 ：H9年度都市計画決定		H10年度用地着手 ：H13年度工事着手				
全体事業費 ：412億円		事業進捗率 ：51%				
計画交通量 ：18,800台/日		供用済延長 ：4.2 km				
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C <small>(事業全体)</small> 2.5 <small>(残事業)</small> 2.6 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用：<small>(残事業)/(事業全体)</small> 198/433億円 事業費：156/391億円 維持管理費：42/42億円 </td> <td style="text-align: center;"> 総便益：<small>(残事業)/(事業全体)</small> 521/1,101億円 走行時間短縮便益：521/1,100億円 走行経費減少便益：0.6/1.3億円 交通事故減少便益：0.1/0.1億円 </td> <td style="text-align: center;"> 基準年： 平成22年 </td> </tr> </table>	B/C <small>(事業全体)</small> 2.5 <small>(残事業)</small> 2.6	総費用 ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 198/433億円 事業費：156/391億円 維持管理費：42/42億円	総便益 ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 521/1,101億円 走行時間短縮便益：521/1,100億円 走行経費減少便益：0.6/1.3億円 交通事故減少便益：0.1/0.1億円	基準年 ： 平成22年	
B/C <small>(事業全体)</small> 2.5 <small>(残事業)</small> 2.6	総費用 ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 198/433億円 事業費：156/391億円 維持管理費：42/42億円	総便益 ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 521/1,101億円 走行時間短縮便益：521/1,100億円 走行経費減少便益：0.6/1.3億円 交通事故減少便益：0.1/0.1億円	基準年 ： 平成22年			
感度分析の結果 ：残事業（事業全体）について感度分析を実施 <small>(残事業)</small> 交通量変動：B/C=2.4(交通量-10%) B/C=2.8(交通量+10%) 事業費変動：B/C=2.4(事業費+10%) B/C=2.9(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=2.6(事業期間-20%) B/C=2.7(事業期間+20%)						
事業の効果等 <ol style="list-style-type: none"> ①円滑なモビリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線（伊那バス）が存在する。 ②都市の再生 <ul style="list-style-type: none"> ・南田市場土地地区画整理事業との連携が見込まれる。 ③災害の備え <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送道路に位置づけられている。 ・緊急輸送道路が通行止めになった場合に代替路線を形成する。 ④地球環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑤生活環境の改善・保全 <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 						
関係する地方公共団体等の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道153号伊南バイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和に重要な役割を果たすことが期待されており、関係する駒ヶ根市および飯島町の首長、議員で構成される国道153号伊南バイパス建設促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。 						
県知事の見解 <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道153号伊南バイパスにつきましては、複雑な地形に沿った現在のルートが解消されることによる安全性の向上、駒ヶ根、飯島の両市街地部の交通渋滞の解消に大きな効果があるものと期待しています。事業継続を図るとともに、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要請します。 						
事業評価監視委員会の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・「事業継続」することは「妥当」である。 						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 <ul style="list-style-type: none"> ・駒ヶ根工区の暫定2車線供用により、駒ヶ根市街の渋滞損失時間が削減。 ・北消防署が伊南バイパスの供用を見越してバイパス沿線に移転。南消防署はバイパスの供用を見越して現在地に立地。 						
事業の進捗状況、残事業の内容等 <ul style="list-style-type: none"> ・駒ヶ根工区（L=4.2 km）について、平成19年12月に暫定2車線で供用。 ・飯島工区（L=5.0 km）について、暫定2車線の早期供用を目指す。 						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						

- ・飯島工区本郷～飯島区間 (L=2.4km) が、平成24年度に暫定2車線供用予定
- ・飯島工区飯島～市場割間 (L=2.6km) が、用地買収が完了し、工事を全域に展開

施設の構造や工法の変更等

- ・PC橋における外ケーブル構造及びテトラレール(新技術・新工法)によりコスト削減を図る予定である。

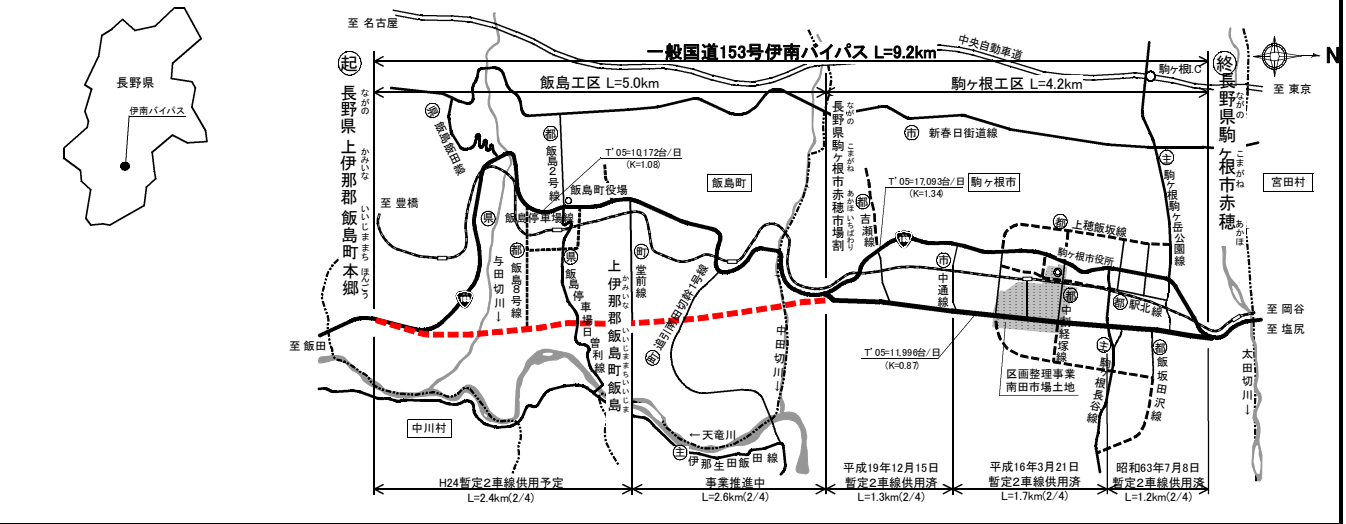
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。